

「献血にご協力を」

「献血」という言葉を目にしたことがあるかと思いますが、この献血について皆さんに意外と知られていないことがあります。

例えば、献血された血液がどのような場面で使われているか、皆さんご存知でしょうか？

もしかすると、事故等で出血してしまったときの輸血のイメージが強いかもしれませんが、でも実際にはこのような用途に使われるのはごくわずかで、献血された血液の多くはがん等の病気の治療に使われています。がん等の病気になると、抗がん剤の副作用や血液の病気により、赤血球や血小板といった血液の成分が体内で作れなくなることがあります。そのため、不足した成分を補うために献血された血液が必要になるのです。

また血液は人工的に造ることが出来ず、長期保存も出来ないため、医療で必要となる血液が不足しないよう日々、継続的に確保する必要があります。

しかし、献血も課題を抱えています。少子高齢化により献血が出来る若い世代が減少していくことが見込まれる中で、2025年には約65万人もの献血者が不足してしまうという試算もあります。また、現在もコロナ禍の影響で、献血も少なからぬ影響を受けています。

皆さん、ぜひ献血に協力してみませんか？

県内には、長野市、松本市に献血ルームがあり、献血バスも各地を巡回しています。献血ルームでは、リクライニングシートで横になり、飲み物を飲みながら漫画を読んだりテレビを見たりしながらリラックスした状態で献血を行うことが出来ます。

長野県赤十字血液センターの職員は、手話ができないかもしれませんが、筆談などを通じて安心して献血をしていただくことができます。

詳細は長野県赤十字血液センターのホームページをご覧ください。

血液センター公式 LINE、公式 Facebook に登録すると、献血バスの運行予定やイベント情報等も知ることができます。また献血 Web 会員サービスを利用すると、Web から事前の予約をすることもできます。